

生老病死

第12回「最終回」2件のサプライズ

篠原裕希
(医療法人篠原湘南クリニック理事長)

「第14回男女共同参画フォーラム」が高知県で開催され、日医委員として出席した。最近の私の楽しみの一つである羽田空港内の「卵かけごはん」専門店。ごはんはおかわり1杯、卵は2個までで550円、とにかく繁盛しているし、おいしい。卵かけごはん専用の醤油まである。

以前、私服だが一目でCA(客室乗務員)と分かる女性が一人で食べていた。食べ方も茶碗を持ってかき込んでおり、あつという間に食べ終わると、大きな声で「スママセン、おかわり!!」。最近では運動部男子でもこんな食べ方をする人は少なくなった。他のお客さんも嘔然というより、ほほえましいという感じだった。

一つ目のサプライズは、この専門店でも女性二人連れが話していた卵かけごはんの醤油のかけ方である。どうやらルールがあるらしく、正解は黄身を一周だそう。たとえば、自宅で食べる時もなんとなく悩んでいた。かけ過ぎがおいしくないのは確かだ。このことをさっそくうちの病院の女性スタッフ達に話したところ、全員が知らず考えたこともなかったとのことで、

この情報は大いに参考になったという(笑)。

もう一つのサプライズは、約10年前のアイランドでの出来事。私がかかりつけ医を務めていた某進学校在籍の男子高校生が母親と一緒に来院、将来医師になりたいとの相談を受けた。それもダブリン大学

医学部に入学したいと。日本人が留学先として通常考えるのはアメリカかイギリスであると思うが、どうしてアイルランドなのかと尋ねたところ、彼は明解に回答した。

①英語を完全にマスターできる。

②将来医師になった時、EU(欧州連合)内ならどこでも働くことができる。

③人種的な差別がほとんどない(私自身、日本人にこれだけフレンドリーな国は経験したことがない)。

そういうことならと、私も全力でアドバイスした。そして、無事に入学できたと報告に来た時、「先生ぜひ遊びに来てください」との申し出を受け、「君が2年生になって少し慣れた頃に家族で行くから案内してくれ」と約束した。

本題はここからだ。ダブリンについて2日目、レストランに案内してもらった。アイルッシュ定番のシチューとエール(ビールの一種)。仲のいい友人同伴もOK。その同伴者が同じダブリン大学の19歳の日本人女性(日本人も10人ほどいたという。当時はダブリン大学では日本人学生の受入れ枠があったが、財政難から数年前に廃止されたようだ)。広島県出身で外国滞在経験はゼロ。挨拶はきちんとするしハキハキしており、好感度抜群! いろいろな話をしながら将来の抱負などを尋ねる時、「私は地球環境問題にとっても関心があります。ここでしっかり勉強して、将来は国連職員になって世界に貢献できればと考えています」。1年ちょっとの滞在で英語はディスカッションレベル、フランス語も日常会話レベルはOK、ドイツ語も勉強中……。こんなにしっかりした人がいるのか、日本も捨てたものではない!!

感激した私達家族は、帰国前日に日本食(すき焼き)を食べる会を開いた。決して上等の肉ではないが、豆腐もありネギも生卵もあって、日本の味は一応楽しめた。

今回の投稿で最後となります。1年間お付き合い有難うございました。